

大きな可能性を秘めて——熊本^いの現状^ま。

テクノポリス構想は、地方での活発な経済・社会活動を支えていくものとして、人や物・情報の迅速で頻繁な移動を基本的な条件としていますが、熊本は九州の中心にあり、九州縦貫自動車道と幹線国道を組み合わせることによって、九州内の主要都市と日帰り交通圏になっています。また、雄大な阿蘇を間近かに望む緑に囲まれた美しい熊本空港は国内でも有数の能力を備えており、東京の都心へ130分、大阪の中心部へ90分で到達することができます。

このように、熊本では、中央の最新の科学や研究開発の成果・技術・文化に容易に接し、また、他の地域との交流を進めていくうえで必要な空陸一体となった交通網が整備されてきており、これからテクノポリス構想を実現していくなかで大きな支えとなります。

〈ICと水〉

熊本テクノポリスで産業の中心の一つになるのが半導体産業です。産業の米といわれるIC（半導体集積回路）生産が多いことからシリコンアイランドと呼ばれている九州の中でも、特に熊本は進出企業を中心としてICの一大生産拠点となっています。このIC関連企業が熊本へ進出した大きな要因の一つは、熊本の豊富で質の良い地下水であったといわれています。

IC生産に限らず、先端産業は良質な水を必要とします。これに対して、熊本テクノポリス建設が進められる地域では豊富に清冽な地下水が湧出しています。熊本市をはじめ周辺町村で60万人をこえる人口の水道用水が、殆んど全部地下水に依存しています。全国に例をみない熊本のこの資源は、テクノポリス建設の中で進められていく先端的な生産活動や豊かな生活の貴重な糧です。



国際線ターミナルが完成し、期待が集まる熊本空港

〈全国から熊本に注がれる熱いまなざし〉

テクノポリスが目指す産業や研究開発を支えるのは人です。熊本は、勤勉で意欲的な県民性を反映して優れた人材が豊富です。県内三つの工科大学からは優秀な技術者が育っています。また、九州縦貫自動車道インターチェンジや熊本空港に近く、他に類を見ない広大な開発可能地が広がっています。

これらは、これからの産業社会をリードする先端的な企業が立地するに当たってはならないものばかりです。

このような、熊本の多くの優れた面に、今、全国から熱いまなざしが注がれ、企業の進出が続いていますが、最近では次のような先端的企業の立地が決まっています。

- ゼベック（ハイブリッド集積回路） ●カネボウ菊池電子（集積回路製造）
- 東京エレクトロン（半導体製造機器） ●日本コンピュータービジネス（ソフト開発）
- 富士通南九州エンジニアリング（ソフト開発） ●構造計画研究所（ソフト開発）
- 中央理研（半導体製造装置） ●日本真空技術（半導体製造装置）

新幹線と連絡する
鹿児島本線

九州道路網の核ともいえる
熊本インターチェンジ